

西洋史

授業科目名	授業題目	単位	担当教員氏名	開講 セメスター
西洋史特論Ⅰ	ギリシア神話と歴史学研究	2	大谷 哲	前期 月曜3限
西洋史特論Ⅳ	ロシアとウクライナの歴史	2	浅岡 善治	後期 水曜3限
比較文化史学特論Ⅰ	ソ連現代史研究の諸問題	2	寺山 恭輔	後期 金曜2限
西洋古代・中世史研究演習Ⅰ	西洋古代・中世史料研究	2	大谷 哲	前期 金曜3限
西洋古代・中世史研究演習Ⅱ	西洋古代・中世史料研究	2	大谷 哲	後期 金曜3限
西洋近現代史研究演習Ⅰ	欧米近現代史研究方法論	2	浅岡 善治	前期 月曜2限
西洋近現代史研究演習Ⅱ	欧米近現代史研究方法論	2	浅岡 善治	後期 月曜2限
比較文化史学研究演習Ⅰ	ソ連史文献研究Ⅰ	2	寺山 恭輔	前期 金曜4限
比較文化史学研究演習Ⅱ	比較文化史学研究演習Ⅱ	2	寺山 恭輔	後期 金曜4限

科目名：西洋史特論 I

曜日・講時：月曜 3 限

開講学期：前期 単位数：2

担当教員：大谷 哲

コード：LM11303, 科目ナンバリング：LGH-HIS612J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：ギリシア神話と歴史学研究

2. 授業の目的と概要：この授業は古代ギリシアおよびローマ時代を中心に、いわゆるギリシア神話の分析を講義する。

3. 学習の到達目標：この授業では古代ギリシア神話の分析方法に関する講義を題材として、受講生が西洋史研究の技法を理解することを目標とする。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

- 第1回： ガイダンス(授業の方針と形式、成績評価方法等)
- 第2回： 例えばアトランティス大陸とは何か - 伝説と史料の読み方
- 第3回： ギリシア神話を把握する - 神々の語られ方
- 第4回： ホメロスの世界 - 叙事詩と社会
- 第5回： 贈り物は神々をも説得する - 互酬とギリシア社会
- 第6回： 社会の切り取り方 - 賄賂とギリシア・ローマ社会
- 第7回： パンドラの贈り物
- 第8回： do ut des の思考法
- 第9回： 神話の伝播と文化受容
- 第10回： 王様の耳はロバの耳と神話伝播
- 第11回： エウロパの誘拐
- 第12回： 走れメロスの走った道
- 第13回： 古代ギリシアの人間と死
- 第14回： 古代オリンピックと神話
- 第15回： まとめと確認のための試験

5. 成績評価方法：毎回の授業での課題提出[60%], 期末試験 [40%]

6. 教科書および参考書：教科書は指定しない。参考文献として M. I. フィンリー著 下田立行訳『オデュッセウスの世界』岩波文庫 1994 年を挙げる。その他の参考文献は授業内で紹介する。

7. 授業時間外学習：ほぼ毎週課題が出るので、それらをきちんとこなすこと。また何らかの事由により基本的知識や素養を欠く場合は、各自の主體的な努力が求められる。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practical business

9. その他：

科目名：西洋史特論IV

曜日・講時：水曜3限

開講学期：後期 単位数：2

担当教員：浅岡 善治

コード：LM23305, 科目ナンバリング：LGH-HIS615J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：ロシアとウクライナの歴史

2・授業の目的と概要：2022年に始まったロシアとウクライナの戦争は、いまだ終わりが見えない。神ならぬ我々が未来を展望するには、過去に沈潜して事態の経緯を改めて確認し、そこから少しでも「この先を照らす」努力を続ける他ない。本講義は、そのようなささやかな試みの1つである。

- 3. 学習の到達目標：**
- ・ロシアとウクライナの相互関係史の展開過程を把握する
 - ・ロシア・ウクライナ史の知見を元に、諸事象を「歴史的に」捉える思考様式を身につける

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. はじめに—本講義の趣旨と進め方について
2. キエフ・ルーシ
3. 「タタールのくびき」
4. ポーランドとリトアニア
5. ツァーリとカザーク
6. 「大ロシア」・「小ロシア」・「新ロシア」
7. 大改革
8. ナショナリズムと世界戦争
9. ロシア革命とウクライナ革命
10. 「自由な共和国の分てぬ同盟」
11. スターリン体制と「ホロドモール」
12. 独ソ戦
13. 後期ソ連体制とウクライナ
14. ソ連解体とその後
15. 総括と展望

5. 成績評価方法：試験：100%

6. 教科書および参考書：全体をカバーする参考図書として、黛秋津編『講義 ウクライナの歴史』山川出版社、2023年；セルヒー・プロヒー『ウクライナ全史』上・下、鶴見太郎監訳、明石書店、2024年、の2冊を一先ず挙げておく。その他、授業の進行に合わせて随時紹介する。

7. 授業時間外学習：講義内容は平易を旨とするが、受講者が何らかの理由で本来備えるべき基本的知識や素養を欠く場合は、各自の主体的な努力が求められる。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：比較文化史学特論 I

曜日・講時：金曜 2 限

開講学期：後期 **単位数：**2

担当教員：寺山 恭輔

コード：LM25205, **科目ナンバリング：**LGH-HIS616J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：ソ連現代史研究の諸問題

2・授業の目的と概要：ロシアによるウクライナ侵略戦争はすでに4年続いている。国内及び外交面における抑圧的な現在のロシアの体制は、スターリン時代を彷彿とさせる。ソ連崩壊とともにロシア・ソ連の歴史研究は急激に進展したが、継続する戦争のため、ロシアの公文書館における史料収集が困難となり停滞している。筆者もその深刻な影響を受けている。それでも本授業では、ロシア国内外におけるソ連史研究の歩みを振り返り、特にスターリン時代のソ連極東に焦点をあて、その歴史を概観するとともに、今後の研究を展望する。

3. 学習の到達目標：1. ロシア国内外におけるソ連研究の歴史、現状を理解する。
2. スターリン時代のソ連極東地域の発展過程を理解する。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション ソ連時代、ソ連崩壊後のソ連史研究
2. ソ連極東とは？ アムール総督府時代、ロシア革命後のロシア極東
3. シベリア出兵、極東共和国、1920年代のソ連極東、スターリンの上からの革命時のソ連極東
4. 満州事変に対するソ連指導部、兵士の反応
5. 鉄道輸送と極東への動員、鉄道の軍事化
6. 潜水艦・魚雷艇建造とそれらの極東への搬送
7. 1930年代初頭の国民の健康状況悪化と、中央と地方当局による発疹チフス蔓延防止措置
8. 極東地方における食料供給と食料備蓄の構築
9. 日本、ポーランドに対するソ連の不可侵条約政策
10. ソ連極東における気象観測、通信網の整備
11. ソ連極東沿岸における要塞、砲台建設と国境警備、国境紛争への対応
12. 白海バルト海運河を伴った北極海航路の開発と、南回り航路によるソ連極東への海上輸送
13. 国家による備蓄構築、金鉱開発による外貨確保政策
14. ダリストロイの形成、収容所群島の形成
15. 独ソ戦争時代のソ連極東、1945年の日ソ戦争と北方領土問題の惹起
16. 第二次世界大戦後のソ連極東、総括

5. 成績評価方法：レポート 50%、出席 50%

6. 教科書および参考書：教科書は使用せず、授業の中で適宜、参考文献を紹介する。

7. 授業時間外学習：紹介する参考文献を読んでくること。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practical business

9. その他：

オフィスアワー 金曜日 16:00-17:00

事前にメールで連絡しておくこと。

科目名：西洋古代・中世史研究演習 I

曜日・講時：金曜 3 限

開講学期：前期 **単位数：**2

担当教員：大谷 哲

コード：LM15304, **科目ナンバリング：**LGH-HIS617J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：西洋古代・中世史料研究

2. 授業の目的と概要：この授業は古代・中世ラテン語史料の読解力を涵養することを目的とする。

3. 学習の到達目標：この授業では受講生が古代・中世ラテン語史料の高度な読解力を獲得することを目標とする。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス：授業の趣旨と進め方について
2. 試訳の検討と討論 (1)a
3. 試訳の検討と討論 (1)b
4. 試訳の検討と討論 (1)c
5. 試訳の検討と討論 (1)d
6. 試訳の検討と討論 (1)e
7. 小括 (1)
8. 試訳の検討と討論 (2)a
9. 試訳の検討と討論 (2)b
10. 試訳の検討と討論 (2)c
11. 試訳の検討と討論 (2)d
12. 試訳の検討と討論 (2)e
13. 小括 (2)
14. 課題発表
15. まとめ

5. 成績評価方法：毎回のテキスト読解と調査報告 [100%]

6. 教科書および参考書：読解テキストは『教皇の書 (Liber Pontificalis)』を予定している。第二候補はルフィヌス著『教会史』である。適宜、必要な資料を配布する。

7. 授業時間外学習：毎回テキストを読解し、必要に応じて近代語訳も参照する。註解書等も参照すること。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

受講生のラテン語読解能力に応じて授業内容を調整することがある。

科目名：西洋古代・中世史研究演習Ⅱ

曜日・講時：金曜 3 限

開講学期：後期 単位数：2

担当教員：大谷 哲

コード：LM25305, 科目ナンバリング：LGH-HIS618J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：西洋古代・中世史料研究

2. 授業の目的と概要：この授業は古代・中世ラテン語史料の読解力を涵養することを目的とする。

3. 学習の到達目標：この授業では受講生が古代・中世ラテン語史料の高度な読解力を獲得することを目標とする。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス：授業の趣旨と進め方について
2. 試訳の検討と討論(1)a
3. 試訳の検討と討論(1)b
4. 試訳の検討と討論(1)c
5. 試訳の検討と討論(1)d
6. 試訳の検討と討論(1)e
7. 小括(1)
8. 試訳の検討と討論(2)a
9. 試訳の検討と討論(2)b
10. 試訳の検討と討論(2)c
11. 試訳の検討と討論(2)d
12. 試訳の検討と討論(2)e
13. 小括(2)
14. 課題発表
15. まとめ

5. 成績評価方法：毎回のテキスト読解と調査報告 [100%]

6. 教科書および参考書：読解テキストは『教皇の書 (Liber Pontificalis)』を予定している。第二候補はルフィヌス著『教会史』である。適宜、必要な資料を配布する。

7. 授業時間外学習：毎回テキストを読解し、必要に応じて近代語訳も参照する。註解書等も参照すること。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

受講生のラテン語読解能力に応じて授業内容を調整することがある。

科目名：西洋近現代史研究演習 I

曜日・講時：月曜 2 限

開講学期：前期 **単位数：**2

担当教員：浅岡 善治

コード：LM11205, **科目ナンバリング：**LGH-HIS621J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：欧米近現代史研究方法論

2. 授業の目的と概要：欧米近現代史に関する古典的著作ないし同時代文献を精読し、その内容について討論を行い、理解を深める。

3. 学習の到達目標：・テキストの内在的な理解による論旨の厳密な把握
・文献読解と討論を通じた研究能力・プレゼンテーション能力の向上。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス
2. テキストの検討・討論(1)a
3. テキストの検討・討論(1)b
4. テキストの検討・討論(1)c
5. テキストの検討・討論(1)d
6. テキストの検討・討論(1)e
7. 小括(1)
8. テキストの検討・討論(2)a
9. テキストの検討・討論(2)b
10. テキストの検討・討論(2)c
11. テキストの検討・討論(2)d
12. テキストの検討・討論(2)e
13. 小括(2)
14. 総括に向けて
15. 総括

5. 成績評価方法：出席：30%・その他(受講態度、課題の達成度など)：70%

6. 教科書および参考書：テキストは開講後発表。

7. 授業時間外学習：ほぼ毎週課題が出るので、それらをきちんとこなすこと。また何らかの事由により基本的知識や素養を欠く場合は、各自の主体的な努力が求められる。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：西洋近現代史研究演習Ⅱ

曜日・講時：月曜 2 限

開講学期：後期 **単位数：**2

担当教員：浅岡 善治

コード：LM21204, **科目ナンバリング：**LGH-HIS622J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：欧米近現代史研究方法論

2. 授業の目的と概要：欧米近現代史に関する古典的著作ないし同時代文献を精読し、その内容について討論を行い、理解を深める。

3. 学習の到達目標：・テキストの内在的な理解による論旨の厳密な把握
・文献読解と討論を通じた研究能力・プレゼンテーション能力の向上。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス
2. テキストの検討・討論(1)a
3. テキストの検討・討論(1)b
4. テキストの検討・討論(1)c
5. テキストの検討・討論(1)d
6. テキストの検討・討論(1)e
7. 小括(1)
8. テキストの検討・討論(2)a
9. テキストの検討・討論(2)b
10. テキストの検討・討論(2)c
11. テキストの検討・討論(2)d
12. テキストの検討・討論(2)e
13. 小括(2)
14. 総括に向けて
15. 総括

5. 成績評価方法：出席：30%・その他(受講態度、課題の達成度など)：70%

6. 教科書および参考書：テキストは開講後発表。

7. 授業時間外学習：ほぼ毎週課題が出るので、それらをきちんとこなすこと。また何らかの事由により基本的知識や素養を欠く場合は、各自の主体的な努力が求められる。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：比較文化史学研究演習 I

曜日・講時：金曜 4 限

開講学期：前期 **単位数：**2

担当教員：寺山 恭輔

コード：LM15406, **科目ナンバリング：**LGH-HIS623J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：ソ連史文献研究 I

2・授業の目的と概要：ロシア・ソ連史に関するロシア語及び英語文献を読むことで、ロシア語及び英語の解読能力の向上をはかる。受講者が交代で、自分の研究分野に関する論文の要旨を発表し、それに関して出席者全員で議論する形で授業を進める。ロシア語に関しては、受講生のロシア語読解力のレベルに応じて、適宜テキストを選択する。

3. 学習の到達目標：1. 研究文献を読むことにより、ロシア・ソ連史を研究するために必要なロシア語及び英語の読解力を高める。

2. 参考文献の探し方、引用の方法も同時に学ぶ。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

担当となる受講者は、事前に自分の関心のあるテーマに関するロシア語または英語の論文を選び、受講者全員に配布するとともに、発表当日には要旨をまとめて参加者の人数分配布し、発表すること。以下、毎週同じ。

5. 成績評価方法：授業への出席（50%）と報告の内容（50%）によって判定する。

6. 教科書および参考書：教科書は使用しない。

7. 授業時間外学習：発表の担当でない受講者も、事前に配布される論文を読み、議論に参加すること。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

オフィスアワー 金曜日 16:00-17:00

事前にメールで連絡しておくこと。

科目名：比較文化史学研究演習Ⅱ

曜日・講時：金曜 4 限

開講学期：後期 単位数：2

担当教員：寺山 恭輔

コード：LM25407, 科目ナンバリング：LGH-HIS624J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：比較文化史学研究演習Ⅱ

2. 授業の目的と概要：前期と同じ

3. 学習の到達目標：前期と同じ

4. 授業の内容・方法と進度予定：
前期と同じ

5. 成績評価方法：前期と同じ

6. 教科書および参考書：教科書は使用しない。

7. 授業時間外学習：発表の担当でない受講者も、事前に配布される論文を読み、議論に参加すること。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

オフィスアワー 金曜日 16：00－17：00

事前にメールで連絡しておくこと。